



山形県(庄内)

1 参加人数

参加者34名、協力員26名、計60名

2 当日の雰囲気

他ブロックと同様、研修会と交流会の二部構成で実施。他ブロックとの相違点としては大きく2点。

- ①最初から4人程度のグループになるよう席をセッティング(グループ毎にSTをあらかじめ配置＝ファシリテーター的な役割を担う)し、受付時に当事者・家族or一般なのかを把握して席の誘導をした事。
- ②講義の中で、○×の答え合わせをするのではなく、交流会の中でファシリテーター役のSTに解答と解説をしてもらうという形式をとった事、である。初めから小グループとした事や、ファシリテーター役を配置した事で、講義中の実技の導入がスムーズにいったようであった。また、そのままの流れで交流会に移り、解答解説をその時に行うようにした事で、ほとんどの方が最後まで参加してくれ、意見交換だけでなく具体的な相談など話しやすい雰囲気になっていたように思う。

<講演の様子>



<交流会の様子>



3 実施しての感想

村山や置賜ブロックのような失語症当事者の会の土壌もなく、そういった繋がりが無い中ではあったが、当事者・家族の方が多く参加してくれた事が何よりも収穫。フォーラム開催にあたり、各市町村の広報誌に掲載依頼の他、チラシを病院や施設、脳外科医院、役所、社協、看護学校や大学等に配布し案内したが、どれくらいの効果があったか?意思疎通支援事業の実施に向けては、一般の方への周知や啓蒙方法についての検討が課題としてまず挙げられるが、当事者・ご家族からは、初めての失語症に特化した研修会で嬉しく思った等、当事業を山形県でも始めて欲しいとする要望も多く、早期に事業に結び付けられるよう両者に向けた取り組みの必要性を感じた。

今回、置賜から順調にスタートし、最終の庄内でも他ブロックに引けを取らずに実施できた要因の第一は、県士会員の協力員が多かったこと!交流会で、コミュニケーションのプロ!言語聴覚士の本領を發揮してくれたことはもちろん、それぞれの役割を理解し首尾よく運営に携わって頂いた。

今後も会員に協力を仰ぎながら、県や各市町村と連携し、庄内地域の実情に合わせた事業展開ができるよう体制作りを進めていきたい。